

科目名	構造力学(2)	科目コード 50280
-----	---------	----------------

学科名・学年	環境都市工学科 4 学年 (プログラム 1 学年)	担当教官	井林 康 (環境)		
単位数	1 単位・必履修	開講期間	後期	時間数	30 時間
				内訳 <small>(時間)</small>	講義(28), 演習(0) 実験(0), その他(2)
教科書					
補助教材					
参考書	崎本達郎・著： 構造力学 [上] , 基礎土木工学シリーズ (森北出版)				

A 科目の概要	
主として構造物の変形と不静定構造物の応力解析をテーマにし，多くの演習問題を解きながら授業を進める	
B 到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 弾性曲線方程式による変形計算を理解する 2. 単位荷重法による変形計算を理解する 3. 不静定次数について理解する 4. 不静定構造の不静定力の計算について理解する 	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(D)
D 履修上の注意	
自分で問題を解き，自分の力を一つ一つと蓄えていかない限り，理解することは非常に困難であるため，自分なり多くの時間と努力を費やして勉強することを期待する。	
E 評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 弾性曲線方程式による変形計算を理解したことを筆記試験によって評価する(20%) 2. 単位荷重法による変形計算を理解したことを筆記試験によって評価する(30%) 3. 不静定次数について理解したことを筆記試験によって評価する(10%) 4. 不静定構造の不静定力の計算について理解する(40%) 定期試験【80%】(前期中間(0)，前期末(0)，後期中間(40)，後期末(40))、その他の試験【0%】、レポート【20%】、その他【0%】 の割合で到達目標に対する理解の程度を評価する。60 点以上を合格点とする。	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	トラスの変形	
2	弾性曲線方程式によるはりの変形(1)	
3	弾性曲線方程式によるはりの変形(2)	
4	単位荷重法によるはりの変形(1)	
5	単位荷重法によるはりの変形(2)	
6	単位荷重法によるはりの変形(3)	
7	単位荷重法によるはりの変形(4)	
8	中間試験	
9	不静定構造物と不静定次数	
10	静定基本形	
11	不静定トラスの応力解析	
12	不静定はりの応力解析(1)	
13	不静定はりの応力解析(2)	
14	不静定はりの応力解析(3)	
15	期末試験	
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		